広陵町教育委員会だより

令和7年度　7月号　　7月8日発行
広陵町教育委員会
北葛城郡広陵町笠161番地2
TEL0745－43－6180　文責・編集　植村

大空ゆ　通ふ我れすら　汝(な)がゆゑに
天の川道(かはぢ)を　なづみてぞ来し

万葉集　　巻10−2001　柿本　人麻呂

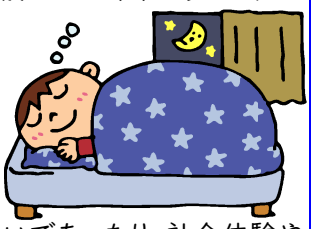
大空を自在に駆けめぐる私だが、定めに従ってあなたに逢うために、天の川を難渋しながらやってきた。

失敗の連続から成功を学び取ろう！

今年の梅雨は、梅雨入りが6月9日(月)、梅雨明けが6月27日(金)となり、気象庁が統計を取り始めてから最も短い梅雨となったようです。梅雨が明けたとたん、30度以上の真夏日が続いています。熱中症には十分にご留意願えればと思います。

月日の経つのは早いもので、1学期末の7月を迎え、学校園においては1学期のまとめの時期に入っており、来週には三者懇談等期末懇談が行われる予定です。そして、18日(金)には1学期の終業式を迎え、今年も44日間の長い夏休みとなります。

これからの暑い夏休みに向けて、子どもたちに確かな規則正しい生活習慣を築いてほしいと思っています。規則正しい生活習慣というと「早寝・早起き・朝ご飯」という言葉に代表されるように、食事と睡眠が真っ先に思い浮かびます。続いて、整理整頓やあいさつ、礼儀などの所作が多くを占めるように思います。



生活習慣づくりは、「生活の感性づくり」でもあります。ここで言う「生活習慣づくり」とは、豊かな感性を育てることです。生活の感性を磨く場は、読書であったり、親との関わりであったり、地域の中での触れ合いであったり、社会体験や自然体験であったりと様々にあります。しかし、関わりのすべてが自分にとって心地よいものではありません。対立することも失敗することも起こるからです。子どもは対立することで不快の感情を学び、失敗の連続から成功を学びます。失敗は新しい行動に挑戦した結果です。失敗をとがめたり、非難したりすると新しいことへの恐れが生まれ、挑戦することに躊躇するようになります。対立を怖がることで困難から逃避してしまう子どもも出てきます。それでは、これからの長い人生が逃避の人生になっていきます。そのような人生を子どもたちには、決して歩んでほしくありません。

今から13年前、4つの中学校が統合され、新生十津川中学校に私が赴任していたとき、中高一貫教育の取組の一つとして、中高文化講演会が十津川高校でありました。その講演会に、お笑いタレントのルー大柴さんが「人生マウンテンあり、バレーあり」と題して、キンダーガーデン(保育園)で芸人になろうと目覚めてから、人生の頂点(山)とどん底(谷)を何度も味わう中で「人生は一度しかない、だから自分の想いを通して生きてきたし、生きたい」とギャグを連発しながらも、自身の苦難に満ちた、紆余曲折の人生を経験する中で今の自分があると熱い想いを伝えられました。

その講演の終わりに、私がその講演の感想と謝辞を述べる機会があり、自分が感じた熱い想いを子どもたちに話しました。その中で、「皆さんのこれからの人生、いろいろあるけど、どんなことにもチャレンジして、数多くの失敗を経験してください。その失敗こそが生きる糧になるので、決して失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦してください。そして、ルーさんが言われた『恥かけ、汗かけ、涙しろ！』を実践してください。」と話しました。

上述したように、まさに失敗の連続から成功を学びとることと私が常々言っている、子どもたちに付けたい力の一つである自尊感情の高揚へとつながるものだと思います。

子どもたちの夏休みの過ごし方アイデア

子どもたちの夏休みを充実させるためには、子どもたちが「やってみたい！」と思えるような選択肢を用意しておくことが大切です。自由な時間があるからこそ、普段はできないことに挑戦したり、好奇心を広げたりできる絶好のチャンスでもあります。

①料理や手伝いで“自立心”を育てる。

「自分も家族の一員なんだ」という意識を持たせるために、料理や洗濯、掃除などの手伝いをすることで、生活の中での「自分でできた！」という小さな成功体験が、自信や自立心につながります。

②自然体験やスポーツで心と体を解放する。

自然の中での川遊びやキャンプなどの体験に加え、スポーツや運動遊びを取り入れることで、心と体のリフレッシュが図れます。また、夏祭りや地域イベントなどへの参加も、非日常の体験として心の刺激になります。

③読書・自由研究・デジタル教材で楽しく学ぶ。

図書館で好きな本を選んで読書に没頭したり、興味のあるテーマで自由研究に取り組んだりすることを勧めます。自分で調べ、まとめる過程は、自主性や思考力を自然に育ててくれます。また、ゲーム感覚で取り組めるプログラミング教材や学習アプリを活用することで、“やらされる勉強”から“やりたくなる学び”へと変化させることにつながります。

④博物館や旅行等で視野を広げる。

博物館や美術館、水族館などの施設を訪れることで、子どもたちの好奇心を刺激し、学びにつながる体験ができます。展示を見て「もっと知りたい！」と思ったことを家で調べたり、感想をまとめてみたりとそんな行動の中に、自然な学習要素がたっぷり詰まっています。また、家族旅行や帰省なども、見知らぬ土地や文化、人とのふれあいを通して、視野を広げる大切な経験になります。

⑤工作・絵・裁縫などで表現力を伸ばす。

ものづくりや表現活動は、子どもの「考える力」や「集中力」、「創造性」を育てるのに都合がいいです。「何を作るか」「どんな風に仕上げるか」を自分で考え、形にしていくプロセスは、正解のない世界に挑戦する力を育みます。作品が完成したときの達成感は大きく、子どもたちにとって自信にもつながり、創意工夫や問題解決の力も養われます。

裏面へ

⑥新しい習い事に挑戦する。

新しい習い事にチャレンジすることで、子ども自身の「やってみたい！」という気持ちが育ち、自信や好奇心の幅が広がります。例えば、ピアノやスイミング、英語のほか、プログラミングなど、自宅で始められるオンライン教材も充実しています。

⑦祖父母との交流や家庭内イベントを企画する。

祖父母との交流は、子どもたちにとって特別な体験で、昔話を聞いたり、一緒にご飯を作ったりする時間は、世代を超えた学びや心の豊かさにつながります。また、「おうち映画館」「手作り縁日」「家族カラオケ大会」など、自宅でできるイベントを企画するのもおすすめです。

⑧地域のワークショップやキャンプに参加する。

地域では、子ども向けのワークショップや体験型イベント、キャンプが数多く開催されます。こうしたイベントは、普段の生活では出会えない人や体験に触れられるチャンスです。例えば、科学実験教室や自然観察ツアー、職業体験プログラムなど、楽しみながら学べる内容が盛りだくさんです。また、サマーキャンプでは、集団生活や自立の練習にもなり、協調性や責任感が自然と育まれます。

教育委員会の後援として

「魔法のキャラバン」を開催しました！

6月14日(土)11時から、真美ケ丘中学校で、「魔法のキャラバン in 奈良」を開催しました。この取組は、広陵町特別支援教育研究会が、東京大学先端科学技術研究センターLEARN主催の「魔法のキャラバン」に応募し、研究会の熱い想いが先方に伝わり、その承認を受けて開催する運びとなったものです。

その内容は、子どもの学びや生活にICT機器を活用するための講演会・機器展示・相談会で、そのサブタイトルには、「読み書きや注意が苦手でも、自分らしく学べる方法がある」というものでした。「学校の勉強がむずかしい」「ノートを取るのがつらい」「文字を読むのがとても時間がかかる」「作文がかけない」など、それは「やる気がない」からではなく、自分に合った「学び方」が見つかっていないからかもしれないのです。そこで、新しい学び方についての講演とICT機器の展示・体験を通して、「ひとりひとり違う学び方」に気づく機会をつくるということで、このイベントが開催されました。

はじめの講演会では、「学びや生活の困難さを、スマホやタブレットで解決してみませんか？」というタイトルで、東京大学先端科学技術研究センターの中邑先生・赤松先生に講演していただきました。その講演の中でLEARNが取り組んだ一つの例として、広島県で実施した不登校の小中学生を対象とした「家を出て自分や家族を考える」と題したプチ家出を経験するというプログラムで、家を飛び出してみたいけど自信がない。そんな子どもたちと一緒に、家を出て自分や家族について考えてみるというもので、初級編から中級編、そして最後は上級編へとステップアップしていく内容でした。家出プログラムを経験した子どもたちは、「自分にとっての大事な人がわかった」や「少し活動的になったような気がする」など人生においてかけがえのない体験をし、これからの生き方が前向きになったという感想が寄せられたという報告がありました。

また、学びや生活の困難さをスマホやタブレットなどのICTとして培ったノウハウを活用して、インクルーシブな教育を勧めていて、特別支援学校や特別支援学級、通常学級に在籍する児童生徒や教員にICT機器を提供する中で、活用した実践事例を研究・公開することで障がい児の学習や生活支援を目指しており、しいてはすべての児童生徒の学びを支えたいということを話されました。さらには、この講演が終わった後、機器展示として、「読む」「書く」「聞く」「話す」「計算する」「探す」など、子どもたちが学習や生活で使える様々なツールやアプリの便利な機能を実際に機器に触れてほしいとも言っておられました。

このイベントは、広陵町の研究会の有志と他市町の特別支援教育の関係者で運営されました。広陵町教育委員会も後援し、関係教員、幼児児童生徒、専門職の方々に参加いただき、子どもが「自分らしく学べる方法について考える」ためのよい機会となったようでした。

詩のコーナー

水のこころ

高田　敏子

水は　つかめません
水は　すくうのです
指をぴったりつけて
そおっと　大切に――

水は　つかめません
水は　つつむのです
二つの手の中に
そおっと　大切に――

水のこころ　も
人のこころ　も

お知らせ

町では、「こどもまんなか社会」の実現を目指して、「こども計画」の策定を進めています。こどもたちの「声」を計画に反映させるため【こども・若者】を対象としたワークショップを開催します。

詳しくは、町のホームページをご参照ください。

https://www.town.koryo.nara.jp/0000007328.html